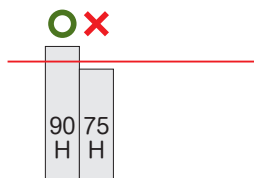


〔3〕 特別条項付き36協定

1年間について「6箇月」を上限として、特別条項を発動させて、次の限度時間とすることができる。

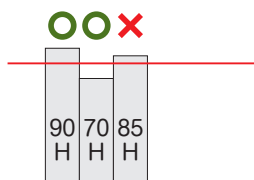
- ① 1箇月の時間外労働（休日労働を含む）……………100時間未満
- ② 2箇月、3箇月、4箇月、5箇月、6箇月のそれぞれの時間外労働の1箇月当たりの平均時間（休日労働を含む）……80時間以内



① ある月の時間外・休日労働が90時間だった場合、翌月は70時間を超えることはできない。

× $(90 + 75) \div 2 = 82.5$

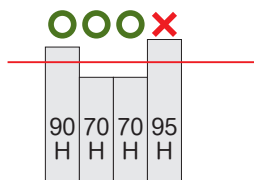
○ $(90 + 70) \div 2 = 80$



② 翌月を70時間としても翌々月は80時間を超えることはできない。

× $(90 + 70 + 85) \div 3 = 81.6$

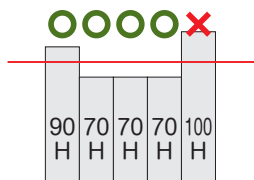
○ $(90 + 70 + 80) \div 3 = 80$



③ 90時間の月に後続して70時間の月が2月あっても、4箇月目は90時間を超えることはできない。

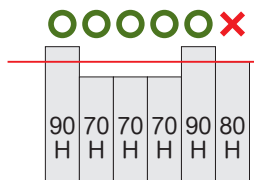
× $(90 + 70 + 70 + 95) \div 4 = 81.25$

○ $(90 + 70 + 70 + 90) \div 4 = 80$



④ 90時間の月に後続して70時間の月が3月あれば、5箇月目が100時間でも80時間以内に収まるが、100時間に達することは禁止されている。

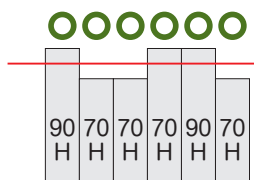
× $(90 + 70 + 70 + 70 + 100) \div 5 = 80$



⑤ 5箇月目を90時間に抑えれば6箇月目が80時間でも6箇月平均では80時間以内に収まるが、直前の2箇月でみると80時間を超えてしまう。

× $(90 + 70 + 70 + 70 + \underline{90 + 80}) \div 6 = 78.3$

× $(90 + 80) \div 2 = 85$



⑥ つまり、本事例の場合、6箇月目は、70時間に収めなければならない。ただし、6箇月目は80時間を超えることができない（②に戻る）。



単月 100 時間未満であるか否か、及び 2 箇月～6 箇月を平均して 1 箇月 80 時間以内であるか否かは、休日労働を含めて判断するが、年間上限の 720 時間以内であるか否かは、休日労働を含めずに判断する！

休日労働を含めた年間上限時間

720時間

	時間外労働	80時間
1 月	45時間	35時間
2 月	45時間	35時間
3 月	45時間	35時間
4 月	45時間	35時間
5 月	45時間	35時間
6 月	45時間	35時間
7 月	75時間	5 時間
8 月	75時間	5 時間
9 月	75時間	5 時間
10 月	75時間	5 時間
11 月	75時間	5 時間
12 月	75時間	5 時間
	休日労働	
	960時間	



特別条項付き協定において、限度時間を超える部分の割増賃金の率は、法 15 条 1 項の規定による絶対的明示事項であり、また、法 89 条 2 号の規定による就業規則の絶対的記載事項である！